
人間だった天使様

エンジン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人間だった天使様

【Nコード】

N0133X

【作者名】

エンジン

【あらすじ】

人間だった天使様は、自身の迂闊な行動により天界と魔界をオタク文化を蔓延させ、和解させてしまう。

遂には神々が二次創作に興味を示し、その犠牲に選ばれた天使様はワケの分からない復讐を誓いながら、物語からの脱出を試みる。

これはそんな残念な天使様が色々と歩き回り、世界を助けてしまう物語。

嵌められた天使様、墜落する天使様

「のう、お前世界を旅したくはないか？」

ある晴れた日のことである。

主神である、レヴェ様がそう口に出したときから私の不幸は始まったのかも知れない。

そうそう、私はカイゼル。

元人間の天使である。昔の人間だった頃の名前はもう忘れた。

偶々、神力といった力の数々が高水準で揃っていた私は他の同じ様な境遇者と共にとある試練を受けた。

世に言う『転生』である。

最初は全員で喜んだ物だ。

チートにハーレム、好き放題にやった。

だが。

その『転生』の回数に際限がなかった。

終わらない転生、終わらない人生。

数々の者は絶望に打ちひしがれ、とある者は後悔し、遂には凶行に走った。

そして正常に残ったままの私を含めた数人はその者達を止める為にその力を奮った。

たくさん犠牲を生み出し、これが神の試練だと知った時には凶行に走った者達が潰え、数少ない戦友達を失った後だった。

私は復讐を決意した。

この怒りをいずれ貴様に…。

私は先輩達と競い合い、神々と会合し、時に下界の人々を助けて信仰を得ながらレヴェ様を倒す機会を探し続けた。

だが今となってはそれもどうでも良くなった。

何故なら…。

「カイゼル！、魔界ギルドと同盟してあのぶぎゃー王国を今度こそランキング一位の座から引きずり落とすのよ！！」

ネットゲームにハマって引きこもりになったアフロディーテ様が、

「ヤバイ、ヒナタちゃんハアハア（＊、＼、＼）」

「カイゼル！、何が戦場の。アルキュリアだ！
私にそっくりの人物が居る性でみんなからセルベリアたん、セルベリアたん……どうしてくれる！！」

上からオーディン様が、下にはその娘である戦乙女セルベリア様が……。
アテナ様に至っては下界に降り、キャバ嬢のナンバーワンとして働いている。

先日、下界のテレビ番組の特集でそのお姿を映していた。

今天界及び魔界は仕事をしてはいるものの、状況は混沌としている。

原因は勿論私だ。

私が下界に降り立った際にどうなっているのか分からないジャンプの現状を知るため買って帰った時である。

「カイゼルよ、その書物はなにか？」

新興神であるレヴェエ様他、アフロディーテ様やオーディン様と言った古参の神々が偶々、俺の天使ポケット（簡単な例えで四次元ポケット）からはみ出したジャンプに興味を示した時にそれは起こった。今までジャンプといった娯楽性のない世界に居た人間が居たらどうなるだろうか？

答えは簡単だ。

「カイゼルよ、至急にこの書物の続きを我が元に届けるのだ！」

「レヴェ様、それは週刊誌と言って週に一度、新刊が発刊される書物でして…」

「ほう、なる程な…。」

「ならば次はこれを入手せよ、カイゼル」

「そ、それをですか？」

「そうだ、行け、カイゼルよ」

レヴェ様が指差した先に写るのは、ラブプラスとアイドルマスターといった所謂ギャルゲー。

その指示通り私は下界に降り、某ゲーム販売店GE。に行き、女性店員が会計をしているにも関わらずに自費でゲーム機とゲームソフトを買い、帰還した。

帰る際に女性店員の冷めた視線とその前で買ったという羞恥心が徐々に私の心をえぐり取った。

とにかく、それを手にしてからはレヴェ様は暫く御自身で創りだし

た世界に閉じこもり、出て来なくなつた。

（その間の事は私が何とか纏めた）

それからである、他の神々が興味を持ち、その都度私が行かせられ、天界は徐々にその姿を変えていった。

無論、その巻き添えに合つたのが魔界（地獄界）である。

これも私がやった。

やり方は同じパターンだったが、こちらの方が悲惨だった。ネットゲームのやりすぎにより数々の悪魔達が餓死したし、特に淫魔はギャルゲーにより、腐女子が増え続けた。

自分の魅力で落とせない、キャラクター達に魅力を感じる。よく分からないが大半がそんな台詞を吐いて死んでいった。

とにかくこの大惨事を越え、ようやく落ち着きを取り戻し、魔界とも和解したが、私はその功労者として2界の繋ぎとなり二次元を提供するようになった。

そして…、神々はまた新しい物に興味を示した。

そう、その名は

『二次創作』

という。

そして私は神々嵌められ、冗談半分で作った肉体に様々な能力や道具を付けて私の魂を封じ込めた。

「簡単に言えば転生である」

そんな私、いや俺は何だかよく分からない世界に落ち、更にその世界に張られていた壁を越え、とある社に墜落した。

「何だ、敵か!？」

「お下がり下さい、ミラ様!」

こうして私、じゃなくて俺はここ、ミラの社に墜落したのである。
世界の壁を越えて。

これは今まで天使という立場から私という一人称を使っていた私が神々への恨みから俺に言い替えようとするよく分からない世界を何故か救ってしまうお話。

うん、自分で言ってもよくわからない。

天使様、御子見習いになる

社に空いた穴が太陽光でサンサンと部屋を照らし、僅かに風通しが良くなったこのミラの社、そこで正座した男と警戒して剣を抜く男性、そして上の穴を見ながら感心しつつ、正座した男に視線を移した。

「どうしてお前は上から落ちてきたんだ？」

私の勘違いだったらしいのだが一瞬断界殻を破られたのを感知した。それはお前か？」

「しえる？、…貝の仲間か何かですか？」

落とし穴に落ちていつの間にかここに突っ込んでたんですが…」

「いや、空に落とし穴なんてあるわけないだろ」

「怪しいヤツめ！」

このイバル様が貴様を直々に成敗してくれる！…」

「えっ、ちよっ、刃物を抜くのは…」

「問答無用！」

「え」

私がこの社に落ちてから数分、そんな多少の誤解による交戦はあったものの、家主と思われる女性と褐色の肌と白い髪、やけに威張った物言いが特徴の青年を何とか説得し、この世界の情報を引き出す事に成功した。

どういった賠償を払えばいいかや曰わく私は何者か等お互いに情報を交換し、納得した上で改めて交渉を始める。

これが私の初めての接触だ。

リーゼ・マクシア、これがこの世界の名称らしい。

何でも精霊と人が共存する世界であるそうだ。

よくあるファンタジーといった世界観なので経験も山ほどあるし、これからの生活に心配する事はなさそうだが、問題はここで一体何をすればいいのか？

よくある『世界を救え！』とかなら考えられなくもないか？

それよりも大丈夫だとは思うが天使ポケットが使えるのか調べないと…。

ついでにこの身体についても…。

調べる事が多いな。早めに終わればいいんだが…。

とりあえずしばらくの方針は自己鍛錬や情報収集にでも当てよう。それよりもまずは…

「という事で肉体労働が何かで返せる仕事ってありませんか？」

この言葉に2人はいぶかしみながらもとある仕事を斡旋してくれた。そう、その仕事とは先程の社の家主ミラ様をお支えする重要なお仕事、御子、

……の見習いである。

こうして私は二・アケリアの御子見習いとして働く事になった。

とりあえず仕事は明日かららしいので今日はこのイバル先輩（名は体を表すというがこれはまさしくそうである。

そもそも彼の両親はどうしてこんな名前にしたのだろうか？

これではイジメの…（以下略）に二・アケリアに案内していただく。そこでどこか空き家があればそこに住まわせて貰えるそうだ。

てつきり監視の為に遣わしたのではと思っていたので正直意外だったが理由を聞くと、

『お前のようなワケの分からないヤツをミラ様をお迎えする御子である俺様の家に上げる筈がないだろう。

そもそも貴様がミラ様のような偉大な御方にお会いすることこそ間違い…（ここから三十分くらい話が続く）』

とりあえず御子の仕事は大変苦労しそうだという事はわかった。

ついでに私を毛嫌いしてるらしい事も。

その後、結局イバル先輩はミラ様の社を直しに行くとかで村の人に案内を任せて適当な道具を抱えながら来た道を引き返して行った。村の人達も最初はぎこちなかったが少しずつ事情（といっても適当な記憶喪失というでっち上げだが）を話すととても親切にしてくれた。

天界での日々を思い出し、こことの扱いの差に涙が出た。

もう天界に戻らなくてもいい。

様々な案内を受け、イバル先輩が帰って来るまで子ども達と遊んで終わった。

自分も社に手伝いに行けば良かったのだろうがイバル先輩は俺様一人で大丈夫だと邪険に扱われてしまったので仕方なかった。

…明日はとにかく頑張ろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0133x/>

人間だった天使様

2011年11月13日10時09分発行